

岐阜大学

キャリア支援部門 ニュース

No.10
2016.3

<https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/introduction/news.html>

就職支援室の紹介

これから就職活動を迎える皆さんへ

岩田 英孝

キャリア支援部門・就職支援室
学生支援課 就職支援係長

私は、平成27年8月1日に就職支援室に着任しました。この日は平成28年3月卒業の学生の就職活動の選考解禁日であり、着任早々どうなることかと心配していましたが、実際には8月以降は相談に来る学生も少なく、就職支援室は落ち着いていました。相談件数の統計を見てみると相談件数のピークは3～6月で7月以降は徐々に減っています。これはどういうことかということ、8月を待たずに多くの企業が選考活動を行っており、7月には多くの学生が就職活動を終えていたということです。

平成28年3月卒の学生は就職活動時期変更の初年度ということもあり、危機感をもって就職活動に取り組んでおり大きな混乱もなかったのですが、心配しているのは平成29年3月卒の学生です。3年生対象に、この1年就職活動支援ガイダンスを実施してきましたが、昨年より参加率が大幅に減っており、広報解禁の3月から取り組みれば大丈夫だと考えている雰囲気を感じられます。

しかし実際には、3月になれば合同企業説明会への参加から始まり、個別の会社説明会の参加、履歴書・ES（エントリーシート）の提出だけにとどまらず、実質的な選考も実施されることが予想されます。平成29年3月卒の選考解禁が6月と2か月早まったことにより、今まで以上に短いスケジュールで企業は動くことが予想されます。（平成30年3月卒以降のスケジュールは変更される可能性があります。）

履歴書・ESを書くには自己分析が必要です。自己分析をしてどのように自分をPRするか考え、それを履歴書・ESに落とし込むには相当な時間が必要です。つまり3月になってから取り組み始めるのでは遅いのです。

自己PRは学生時代をどのように過ごしたかが問われます。学業だけでなく、サークル、アルバイト、ボランティア等なんでも構いませんので、学生生活を充実させることを心がけてください。

そして3年生になったら、まずは就職活動支援ガイダンスに参加してください。（6月開始予定です。）そして積極的に就職支援室の活用をしてください。就職支援室ではガイダンスだけでなく、就活セミナーとしてES作成講座、グループディスカッション講座、グループ面接講座などの様々な支援を行っています。また、相談はいつでも受け付けますので、気軽に就職支援室に足を運んでください！



就職ガイダンス

私の就職活動での3種の神器！

佐藤 璃奈

平成28年3月
工学部応用化学科卒業



これから就職活動をする方へ、私の経験でこれを使いこなせると就職活動がスムーズに進むというものが3つあります。それが「人事」「面接」「キャリアセンター」の3つです。

まず「人事」です。企業にエントリーすると書くエントリーシートを企業のなかで一番に見て、その後の選考に進めるかどうかを決める書類選考をする中で一番重要な人です。そのため、事前にエントリーシートが手元にある場合は人事の方にどの点を重点的に見ているか等、分からない点や気になる点があれば全て質問をします。そこで得た情報をもとに人事の方が次の選考に進めてみたいと思える内容のものを作成していきましょう。「人事」からより多くの選考に関わる情報を引き出すことで、その後の選考の対策を十分に練ることができるため、うまく使いこなせるようにしておくといいでしょう。

次に「面接」です。おそらく自分で面接の練習を何度かすると思いますが、その通りの面接をしてくださる企業はほぼありません。また、面接独特の雰囲気に慣れていないと緊張で話す内容を忘れてしまうということもよくあります。なので、本命の企業を受ける前にいくつか別の企業の面接を受けてその独特の雰囲気に慣れていくことが大切です。さらに「面接」では、エントリーシートをベースとした質問では企業同士で似てくる傾向があります。そのため、別の企業で受けた質問に対して答えられるようにしておくことと次の面接への対策にもなります。面接でされた質問をリストアップしておく結構便利です。

最後に「キャリアセンター」です。私の就職活動においてこの存在がなければ失敗していたといえるくらい重要なものでした。先に示した2つのことは自分でできます。しかし、人事が気になるエントリーシートを書けているか、面接での質問に対して適切な答えを返せているか等は、自分だけでは判断できません。その問題を解決してくれたのが「キャリアセンター」でした。エントリーシートでは、添削をした後では自分でも分かるほど内容の濃い、素晴らしいものが出来上がりました。また、面接練習では何パターンもの質問と回答の練習をしたことにより本番の面接では柔軟に対応でき、しっかりと話すことができました。このような、私の経験からも「キャリアセンター」をうまく使いこなしてしっかりと面接の準備をしていきましょう。

最初は思い通りにいかないこともありますが、最後まで諦めずに頑張ってください。そうすれば希望の企業の内定を手にするのも夢ではありません。

先輩社会人寄稿

「やりたいこと」は禁句??

中山 智隆

平成17年
地域科学部卒業



現在、臨床心理士として医療機関や教育機関で働いています。地域科学部のあまりの居心地よさに6年も居座り、外部の大学院に進み、28歳の年に新卒で社会人になり、2年足らずで辞め、1年間フラフラしたあと臨床心理学の勉強をイチからはじめ、働きながら再び大学院に通い、今年度から臨床心理士になりました。地域科学部の指導教員だった先生には、お会いするたびに「まだ仕事は変えてないかね?」と聞かれます。おかげさまで、臨床心理学の勉強を始めてから5年たちますが、つらいことは多くありましたがやめたいと思ったことは一度もありません。これからは職場を変えることはあると思いますが、臨床心理士としての仕事はできれば一生続けたいと思っています。

学生時代、というか20代は「やりたいこと」を求め、何度か「失敗」してきました。まるで玉ねぎの皮を、芯を求めて「あれもちがうこれもちがう」とむいていくような具合でした。結局、何枚か皮をむいて臨床心理士という仕事に出会いました。「やりたいこと」に出会ったというよりは「もうしょうがない、これしか残っとらん」という感じでした。

「やりたいこと」を求めることは必ずしもわるいことではないと思います。でも、それがうまくみつからなくても、そのとき目の前にある人や物事に対し誠実に向き合っていくことが必要だったのかもしれないと、自分を振り返って思います。どちらかというと「やりたいこと」をいいわけにして、目の前にある人や物事に対し誠実に向き合うことを避けていたことの方が多かったのかもしれない。

玉ねぎだって、気に入らないからといって皮をむいて捨てるだけではもったいない。一度むいたらその皮をよく味わってみる。甘味も苦味も辛味もあるでしょうが、よく味わうことで思いがけないことにつながるかもしれない。玉ねぎは芯もさることながら皮もおいしいんですよ。

「キャリア形成」に思うこと～私の体験より～

浅野 佳正

教育学部同窓会副会長
昭和47年教育学部数学科卒業

「キャリア形成」という言葉をよく耳にするが、目をみはるような経歴を創り上げることではない。もしそうであれば極一部の勝ち組しかキャリア形成はできないことになる。社会的・職業的に自立するためには 自分らしい生き方をして満足度（充実感・生きがい・誇り）を得ること 職業人、社会人として社会的に貢献するという自負があること 不測の事態、逆境のときに跳ね返すパワーを持っていることの3要件が必要だと考える。だから能力、個性、境遇等に関係なく国民全てが、健康である限りキャリア形成することができるし、充実した人生を送るためにしなければならないことである。現役を退いた後もそうである。

私は教職に就いて38年間、小中学校の教員として定年まで職務をまっとうできた。全国的に中学校が荒れた時代にどうやって学校を立て直すか悪戦苦闘したこと、いじめや不登校、対応が難しい親、学力低下への強い風当たり等決して楽しい毎日ではなかったがトータルとしては充実した日々であった。そういう時支えになったのが苦楽を分かち合う同僚の存在、家族の支えだった。キャリア形成は独りではできない。また、生き方を導いてくれる言葉（座右の銘）もいい。



- ・みんなだれかの大切な人
- ・一隅を照らす人になろう（伝教太師・最澄）
- ・世の中に何でもできる人は一人もいない、何にもできない人も一人もいない。

現役を退いてからもボランティアを含めていろんな仕事をさせてもらっている。例えば岐阜大学教育学部同窓会の仕事もその一つ。現場の先生方から教育実践研究論文を募集し、優秀作品を論文集にまとめる仕事に2年間携わった。また、一人親家庭の子供の学習支援をする公的な学習塾が国・県の事業として平成27年度羽島市に立ち上げられた。その運営にささやかながら関わって子供たちに勉強を教えていて、自分自身の生き甲斐になっている。

人気番組「下町ロケット」で佃所長が社員に語った言葉…「技術者として、社会の一員として人の命を救うのは我々の使命である」…私のような小さな人間でも「一隅を照らす」ことはできるはずだ。それが「キャリア形成」だと思っている。

P→D→C→Aサイクルの実践

青山 勝沖

工業倶楽部関西支部副支部長
昭和45年工学部工業化学科卒業



某社の入社試験の第2次選考・面接のエピソードです。

面接室に呼ばれ着席するやいなや人事担当専務から“君は1次試験の成績も大学での成績も良くない、なんで？”“もし当社に入社できたら何がしたい？”と質問されました。

他にも何か聞かれたと思いますが、今でもこの質問しか覚えておりません。

さて、大学を卒業してからの会社生活は、家庭は女房に任せきりで酒、ゴルフ、麻雀の日々で、前半は品質管理、後半が営業でした。そこで得た教訓は「何をするにもPlan（計画） Do（実行） Check（評価） Action（改善）（略してPDCA）サイクルを実践すること、製品知識習得のため事あるごとに製造現場に顔を出すこと」が必要なことでした。

このPDCAサイクルは、業務プロセス管理手法の一つで1回のサイクルで終わりではなくサイクルで得られた結果（成果）・問題点等を分析・評価してつぎのサイクルに反映（レベルアップ）して継続して回すことでプロセスが改善されて行きます。

品管時代はクレーム発生を未然に防ぐ為の源流管理に、営業時代には受注 製造依頼 納品 集金業務のうち、特に受注業務で如何にして得意先キーマンに近づくかPDCAサイクルを回して日々精進しました。なかんづく、営業時代にこのサイクルを円滑に回してくれたツールが、接待での 酒：酔った勢いで資料担当係長をヘッドロックしちゃうほど仲良くなったり、ゴルフや麻雀：本心を見抜く、だった気がします。

最後に、冒頭の面接時の質問に対し、確か私は“頭はワルイけど正直です。そして、もし入社できたらどんな職場でも構いませんが当初はトライ&エラーを繰り返すと思います。”と答えたことを覚えています。

卒業生からみた在学生のキャリア教育に関する実態調査の結果

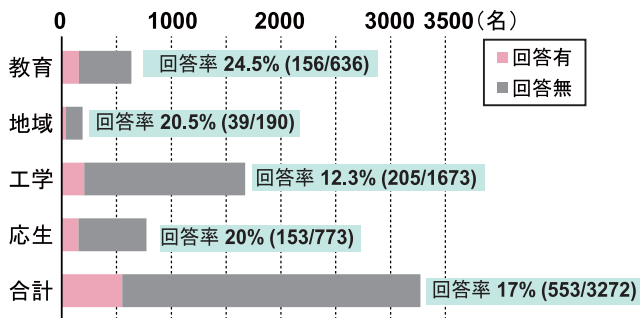
2015年8月に各学部の2000, 2005, 2010年の卒業生*を対象に、「卒業生からみた在学生のキャリア教育に関する実態調査」を実施しました。20代, 30代の若い先輩方に学生時代を振り返っていただき、キャリアを形成する上で学生時代に大切だと思うことを答えていただきました。

* 地域科学部は2001年3月に第1期生が卒業したため、2005・2010年卒業生の回答のみ

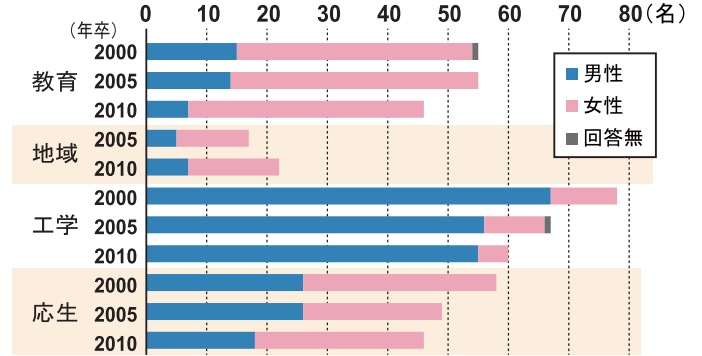
1. 回答数

[以下 教育（教育学部）・地域（地域科学部）・工学（工学部）・応生（応用生物科学部）と表記する]

(1) 学部ごとの回答率



(2) 回答者内訳（学部, 卒業年度, 性別）



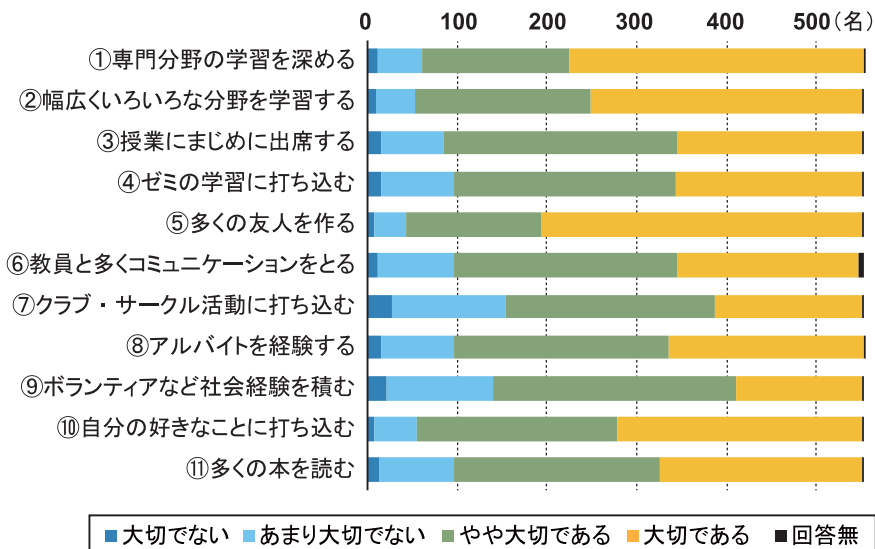
2. 卒業生の就労業界（回答無を除く）

全回答者 553 名中、現在就職している 504 名の就労業界は以下の通りである（2 名回答なし）。

- ①製造業 ②電気・ガス・熱供給・水道業 ③卸売業・小売店・飲食店 ④金融・保険業 ⑤情報サービス・調査・広告業
⑥教育・研究 ⑦医療・社会福祉 ⑧建設業 ⑨運輸業 ⑩通信業 ⑪農林業・水産業・鉱業 ⑫協同組合 ⑬公務員 ⑭その他

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	計
教育	6	0	0	3	1	95	4	0	0	1	0	0	20	3	133
地域	4	0	3	4	4	1	0	2	0	2	0	0	13	2	37
工学	103	3	1	5	0	16	7	4	17	1	2	1	0	28	199
応生	43	1	4	2	5	17	9	6	0	0	8	2	31	5	135

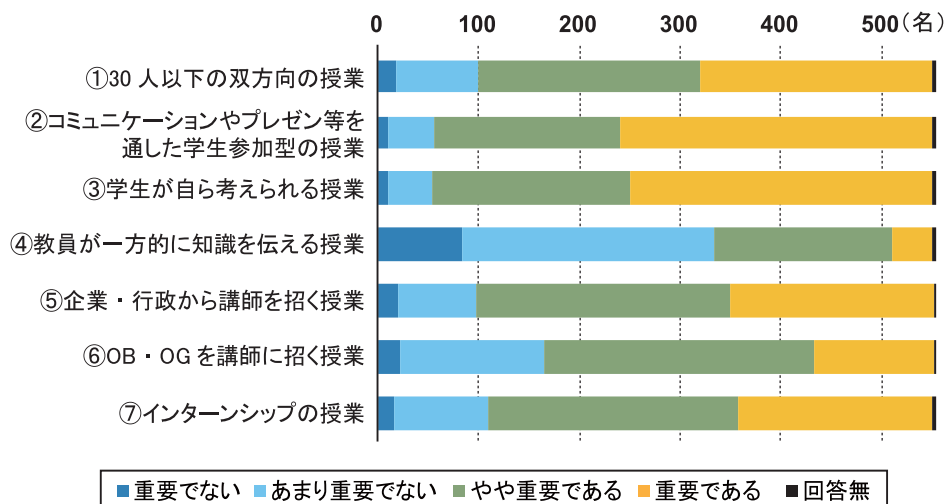
3. 卒業後キャリアを形成する際に大学時代に大切だと思う行動



卒業後キャリアを形成する際、全学部を総合すると大学時代に「⑤多くの友人を作る（65%）」「①専門分野の学習を深める（59%）」「②幅広くいろいろな分野を学習する（55%）」の順で大切であると考えている卒業生が多かった。学部別の大切であるとする上位3つは以下の通りであり、地域のみ⑧・⑩が挙がっていた。

- ・教育：①76% ⑤66% ②54%
- ・地域：⑤72% ⑧・⑩67%
- ・工学：⑤61% ②57% ①52%
- ・応生：⑤65% ①56% ②54%

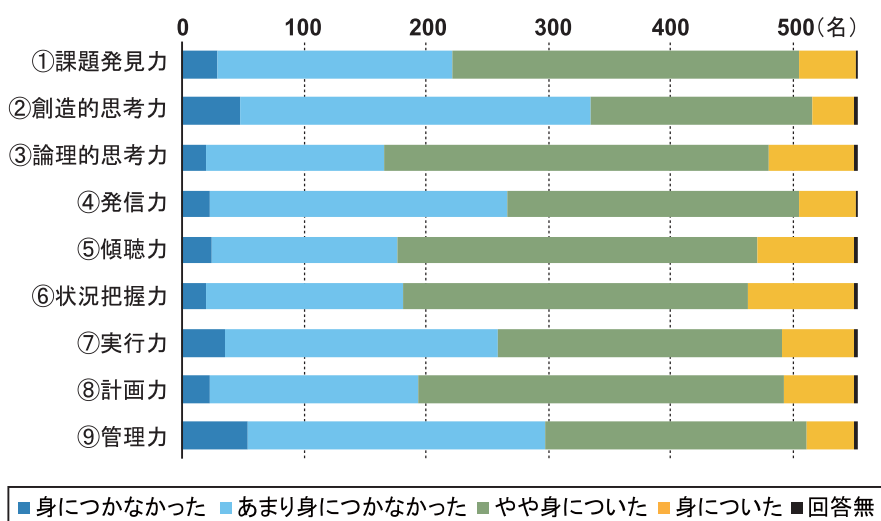
4. 在学生のキャリア意識を高めるためには重要だと思う授業形態



在学生のキャリア意識を高めるために重要な授業形態として、全学部を総合した結果では「②学生参加型の授業（56%）」「③学生が自ら考えられる授業（54%）」がほぼ同程度重要であると考えられていた。学部別の上位3位は大きく異なっており、特に地域では他学部で重要度が低い④⑤が上位に挙がっていた。

- ・教育：①71% ②56% ③54%
- ・地域：⑤72% ④54% ②46%
- ・工学：②・③56% ①50%
- ・応生：②58% ③57% ⑦36%

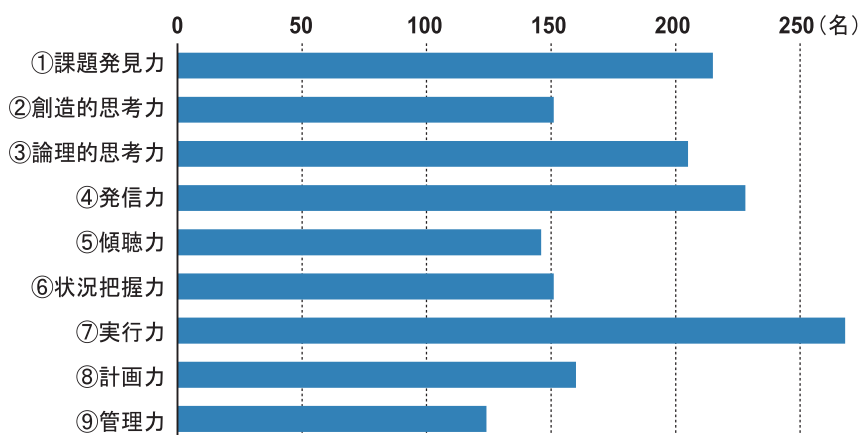
5. 大学卒業当時において身についた基盤的能力とその程度



全学部を総合すると、大学卒業当時においての基盤的能力の修得程度は、いずれの項目でも「身についた」に比べ「やや身についた」の回答が多く、双方を合わせると「③論理的思考力（70%）」「⑤傾聴力（68%）」「⑥状況把握力（67%）」の順であった。学部別の上位3位は以下の通りである。

- ・教育：⑤80% ⑥75% ⑧70%
- ・地域：③79% ⑤77% ⑧69%
- ・工学：③62% ⑤・⑧58%
- ・応生：③75% ⑥72% ⑧62%

6. これまでの職務経験から特に重要だと考えられる基盤的能力3つ



全学部を総合した結果では、これまでの職務経験から重要だと考えられる基盤的能力は多い順に「⑦実行力（48%）」「④発信力（41%）」「③論理的思考力（37%）」の順であった。学部別の上位3位は以下の通りである。

- ・教育：⑦51% ①・④40%
- ・地域：③49% ⑤44% ⑦46%
- ・工学：③44% ④・⑦43%
- ・応生：⑦47% ④42% ①37%

7. まとめ

本学の卒業生は大学時代に多くの友人を作り、専門分野の学習を深めると同時に幅広くいろいろな分野を学習することが大切だと答えていました。また卒業してから現在までの職務経験より、9つの基盤的能力のうち「実行力（目的を設定し他者に働きかけ協同して確実に実行する力）」と「発信力（自分の意見を、事例や客観的データ等を用いて聞き手の状況を理解しながらわかりやすく伝える力）」が特に重要であるとのことでした。

在学生の皆さんには、今後これらのごことに心がけて大学生活を送られることを期待しています。

（文責 教育推進・学生支援機構 特任教授 坂口菜朋子）

平成27年度プロジェクト型インターンシップを終えて

金森 敏

岐阜大学教育推進・学生支援機構
プロジェクト型インターンシップ担当教員

皆さんは「プロジェクト型インターンシップ」という授業を知っていますか。本授業の特徴は企業や団体から与えられた課題を、チームで取り組むことによりその問題を発見し、課題を解決する約半年間のPBL型（Project-Based Learning）の授業です。はっきり言って、決して「楽勝単位」ではありません。むしろ、チームでの取り組みを通して、参加者が自らの頭で「考え・気づく」ことが求められます。

また、授業外の時間においても、学生同士の話し合い、学外に出たのインタビュー等があります（今回は山県市を中心にインタビューや視察を行いました）。学生にとっては「大変な授業」です。特に、今回のプロジェクトでは、課題を与えられるのではなく、課題そのものも学生自らが考えなければいけません。課題を与えられ、それらを解決することでさえ大変なのに、今年度は課題そのものをゼロから作り出す必要がありました。そして、その課題を学生自ら解決するという困難を極める内容でした。この点については、次の2名の学生の感想を読んでもらおうと思えます。

「プロジェクト型インターンシップ」は大変な授業で非常に苦労しますが、やりきった際には、多くの学びや気づきを得ることができます。そして確実に成長します。少しでも興味を持ったら、平成28年度「プロジェクト型インターンシップ」に参加してみませんか。なお、写真は今回のプロジェクトメンバーの7人です。



白木 咲耶（地域科学部3年）

このプロジェクトでは、課題を見つけるまでが本当に大変でした。プロジェクトが進んでいるのかいないのかも分からないし、間に合うのか、最終的に形になるのか、本当に先が見えませんでした。しかし、話し合いや現地調査を何度も重ねて設定した、「若い人（岐阜大学生）を呼び込むためにはどうするか」という課題は、そのおかげで納得のいく課題になり、プロジェクトの成功につながったのだと思います。効率のよさを重視することはもちろん大事だとは思いますが、回り道をすることで自分たちのプロジェクトは確実に濃いものとなったと思います。プロジェクトの中で、現地の方から話を聞く機会がたくさんありました。全然関わりもなかった人に急にインタビューをするのは正直最初、気が引けました。

しかし、自分とは全く違う人生を歩んできた人生経験豊富な方々から話を聞くのはとても有意義で、話を聞くことがとても楽しくなりました。みなさん、山県市について熱い思いを持っていて、「山県市をこんなふうにしていきたい。」「山県市はこんないいところがあるんだ。」と語ってくださり、自分もそれを聞いて、「じゃあこうすれば若い人は興味を持つんじゃないか。」と、自然にアイデアが出てくるのが自分でも驚きでした。そういう方々と話をすると、毎回終わった後に、自分の価値観や考え方が変わっていました。これから先、いろいろな人に会い、いろいろな人の話を聞くといいと思います。いろいろな人の考え方を吸収して、自分の考えをより深いものにできるような人になりたいと思いました。

亀山 絢乃（地域科学部3年）

私がこの授業を通して一番感じたことは、“作り出す”ことの難しさです。与えられた問題や課題の解決方法を見つけることが大変であることは確かです。だけど、まず何が問題であるか、ということを探し出すことはもっと難しいことであるのだと身を持って感じました。実際にプロジェクトの半分程は課題発見のために時間を費やしました。私はいつでも、目的をはっきりさせて、そこに向かうためのアプローチを考えてきました。だから正直始めは何のために、何をしているのか、わからないまま活動をしていました。だから課題が決定した時は、まだ解決していないのに不思議な達成感がありました。これはこのプロジェクトを通して初めて味わった感覚です。

また、課題を見つけだすプロセスを含めてインタビューなど、このプロジェクトではたくさんの社会人の方々にお世話になりました。メンバーの学年がバラバラで最年長であったこともあり、チームにおける自分の役割を果たすことに加えて、チームとして円滑に活動できるように意識を持ち続けていました。それは、メンバー全員の理解を確かなものしておく必要があると感じたからです。チーム内での誤解は私たちに関わってくださる学外の方々にも迷惑をかけてしまいます。それでは信頼してもらえないし、協力も得られません。チームがまとまっていることの大切さも学ぶことができました。

キャリア支援部門ニュース編集委員

委員長・松居 正樹
（キャリア支援部門長）

委員・坂口 菜朋子
（教育推進・学生支援機構特任教授）

委員・金森 敏
（教育推進・学生支援機構特任准教授）

委員・酒光 伸亮
（学生支援課課長補佐・就職支援室長）

委員・五味 進司
（キャリア支援部門事務担当）

●岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門●

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリア支援

Tel. 058-293-3393

career@gifu-u.ac.jp

就職支援

Tel. 058-293-2147・3362

job@gifu-u.ac.jp

イノベーション創出若手人材養成

Tel. 058-293-3492

innova@gifu-u.ac.jp